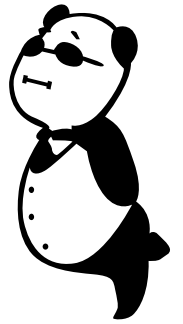


「自分の信念に基づいて」

校長 田邊 泰

「不易」とは、「時代に左右されず変わらないもの」という意味です。そして「流行」は、「その時代ごとに変わっていくもの」です。「不易流行」という四字熟語はこの2つの相反する言葉が合成して生まれました。この言葉の語源は、松尾芭蕉（※『奥の細道』などが有名な江戸時代の俳人）が確立させた「蕉風俳諧」の理念だそうです。一見矛盾する言葉が並立しているようにみえますが、「新しみを求めてたえず変化する流行性にこそ、永遠に変わることのない不易の本質がある」（精選版 日本国語大辞典より）という考え方で



何だか難しいように感じますが、私は「自分の核となる部分（＝不易）がぶれることなく、新しいこと（＝流行）にチャレンジする精神が大事」という戒めが、不易流行の一言に込められていると考えています。

さて、いよいよ令和4年度が始まります。1年生は中学校に進学し、2年生は3年生に、1年生は2年生に、それぞれ進級したわけです。環境が変われば、立場も変わります。人間関係にも変化が出てくるでしょう。その中で、自分はどうすべきなのか。最終的に判断するのは自分自身です。判断するというのは、大抵の場合は幾つかある選択肢から選ぶことが多いものですが、その拠り所となるのが不易流行だと私は思います。

小説や舞台、映画の中で「タイムスリップ」をモチーフにした作品が多くあります。過去に戻って人生をやり直してみたり、逆に未来に行って自分の将来を覗いたりする題材の作品に多くの人が共感するのは、自分の人生の選択肢に何らかの後悔を経験しているからではないでしょうか。

人生に「～たら」「～れば」はありません。今を生きる中で、日々自分で判断していかなければならないのです。あれこれと迷いつつも、行動基準の元となる考えが、不易流行です。この後、岸中学校の皆さんが、自分の信念に基づいて、積極的に人生を切り拓いていく姿を、教職員一同見守っていきます。